

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	福留 尚典 (ふくどめ たかのり)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 7 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本ストレスマネジメント第 21 回学術大会・研修会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	福留尚典・森滉平・森石千尋・大山一樹・嶋田洋徳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	認知的・生理的観点における「プロセスとしてのレジリエンス」に対する構成概念の 検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>問題</p> <p>強いストレスを経験した者における回復の程度は、個人差である「レジリエンス」とした概念によって理解される(村木, 2015)。従来、レジリエンスは質問紙によって特性的に理解、測定されてきた。しかしながら、レジリエンスはストレス状況下からの回復の程度、として理解されることを踏まえると、その回復過程を測定することが重要であると考えられる。実際に、レジリエンスを特性ではなく状態として理解することは、治療的支援に有用な知見を提供する可能性も指摘されている(Kalisch et al.,2015)。</p> <p>レジリエンスをストレス状況下からの回復過程としてとらえるにあたっては、ストレッサー曝露後のストレス反応を経時的に測定し、その反応に影響を及ぼす要因を検討することが有用であると考えられる。ストレス反応に影響を及ぼす要因としては、コーピングや情動調整、反すうが指摘されている(Tabibnia, 2020;Troy et al., 2023)そこで、本研究では、ストレス反応の過程に影響を 及ぼす要因としてコーピング、情動調整、反すうを想定 し、これらがストレッサー呈示後のストレス反応の過程に及ぼす影響を検討することで、レジリエンスを状态的に測定可能か検討することを目的とする。</p> <p>方法</p> <p>大学生および大学院生 20 名(男性 9 名, 女性 11 名, 均年齢 23.8±5.7 歳)を分析対象とした。測度として、(a)認知的ストレス反応:VAS, (b)生理的ストレス反応:コ ルチゾール測定値, (c)コーピング:VAS(大学生用ストレス自己評価尺度(尾関, 1990)を基に作成), (d)情動調整:VAS(Emotion Regulation Questionnaire 日本語版(吉津他, 2013)を基に作成), (e)反すう:VAS(Ruminative Responses Scale 日本語版(Hasegawa, 2013)を基に作成)を用いた。本研究は早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された(2021-181)。実験手続きとしては、状態ストレスの測定、認知課題、唾液採取を実施した後(T1)、TSST を行い、4 つの時点において、それぞれ T1 と同様の測定を実施した。結果</p> <p>ストレス反応群を時系列クラスタ分析した結果、認知的ストレス反応群においては、3 つのクラスタ(高反応・高回復群, 中反応・低回復群, 高ストレス群)に分けられ、生理的ストレス反応群においては、2 つのクラスタ(高反応・高回復群, 低反応・低回復群)に解釈できた。これらのクラスタと状态的</p>	

な反応との関連性を検討するため、状態的な「コーピング・情動調節方略・反すう」を従属変数、認知的・生理的ストレス反応群を独立変数とした 2 元配置分散分析を行った。状態的な反すうにおいては生理的ストレス反応群の主効果のみが有意傾向であった($F(1,14) = 3.25, p < .10, \text{partial } \eta^2 = .19$)。群間比較の結果、生理的ストレス反応における高反応・高回復群は低反応・低回復群と比較して状態的な反すうが高い傾向にあることが示された。

考察

本研究の結果から、生理的側面における「状態としてのレジリエンス」の程度は、反すうといった認知的制御によって影響される可能性があることが示唆された。今後、レジリエンスを検討する際には、質問紙による記述のみならず、生理指標によってストレス曝露後の回復過程を記述することが、レジリエンスの実態を理解するために有用になる可能性があることが考えられる。

※演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。

(FUKUDOME Takanori, MORI Kouhei, MORIISHI Chihiro, OYAMA Kazuki, SHIMADA,

Hironori)

※無断転載禁止